

令和8年度 調布市立柏野小学校 学校経営計画（学校長 西山 豪一）

学校の教育目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 考える子（友達と共に考え、自らの考えを深めていく児童）</li> <li>○ 思いやりのある子（命の大切さを理解し、自他を大切にできる児童）</li> <li>○ 健康な子（自他で運動する楽しさや健康の大切さを実感するとともに、自分の身を守ろうとする児童）</li> </ul>	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
<p>【目指す学校像】 「わくわくする学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が、自らの成長を感じ、生き生きと学べる学校</li> <li>○ 教職員が、自信とゆとりをもって、互いに高め合える学校</li> <li>○ 保護者や地域が、安心して任せられるとともに、すすんで関わりたくなる学校</li> </ul>	
<p>ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)</p>	<p>【主な現状】 学校生活に前向きに取り組もうとしている児童は多いが、一方で、学習面や生活面で課題がある児童、登校渋りのある児童、特別な支援が必要な児童がどの学年にも一定数いる。</p> <p>【課題】・授業のめあてや振り返り、発問の工夫、児童による選択・決定の場などによる主体的に学べる授業の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを深めるための ICT 等を活用した個別的な学びと協働的な学びの実践</li> <li>・組織で児童一人一人の状況を把握し、学校全体で児童を育成していくための体制づくり</li> <li>・教員自らがすすんで指導力向上を図ろうとするための環境づくり</li> </ul>
中期的な経営目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>1 温かい人間関係の中で豊かな心を育む。(特別活動と道徳教育との両輪による心の育成と道徳的実践力の向上)</li> <li>2 一人一人の児童に応じて学力を身に付けさせる。(各教科における基礎・基本の確実な定着と ICT を活用した授業の構築)</li> <li>3 運動・健康保持の習慣化を図る。(運動の楽しさと自己の伸びを味わうことによる運動習慣の定着と食育を中心とした健康教育の推進)</li> <li>4 児童が安心して学べる環境を整備する。(UD 環境の整備や指導方法の工夫、個に応じた指導)</li> <li>5 いじめ・不登校対応を組織的に対応する。(いじめ・不登校に関する組織での対応と保護者への啓発)</li> <li>6 地域との連携を通して、地域で児童を育てる。(学校運営協議会での熟議や地域学校協働本部との連携)</li> </ul> <p>人・組 様々な課題に対応できる能力の育成と教員の主体性を図る。</p>	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①人と関わる活動(たてわり班活動、ふれあいタイム、係活動、清掃等)を計画的に実施する。	①自分の考えを書く、伝えるなど、表出する機会を毎時間設定する。	①「ちょこプラ1調布」「ダブルダッチ」の取組や授業などで体を動かす機会を増やし、自らが運動に関して目標を立てられるようにする。
②体験的な学習や児童が自ら選択・決定できる教育活動を昨年度よりも充実する。	②各単元での協働的な学びの場面で、児童用タブレットを活用した授業を行う。	②T2として栄養士や養護教諭が関わる食育の授業を全学級で実施する。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①「協力」や「仲良く」に関する児童アンケートの肯定的評価を 90%以上にする。	①「授業」に関する児童アンケートで肯定的評価の平均を 90%以上にする。	①「体力向上」に関する児童アンケートで肯定的評価を 80%以上にする。
②児童アンケート「学校は楽しい」という質問で肯定的評価を 90%以上にする。	②「タブレット活用」に関する児童アンケートの肯定的評価を 85%以上にする。	②「食育」に関する保護者アンケートで肯定的評価を 90%以上にする。
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 特別支援教育の充実	5 いじめ・不登校対応の充実	6 保護者・地域との連携・協働
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①基礎・基本の定着を図るために、UD(前時の振り返り等)を配慮した授業を実施する。	①学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ対策委員会を毎月開催し、未然防止・早期発見に努める。	①学校運営協議会を計画的に実施し、その内容や学校の教育活動等を学校だよりや HP で積極的に報告する。
②特別な支援が必要な児童(レベル2以上)全員の教育支援計画・個別指導計画を作成する。	②不登校対策委員会を毎月開催し、不登校傾向のある児童に対して、積極的な関わりをする。	②地域学校協働本部と連携し、地域の方々の協力得た学習活動を展開する。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①「授業」に関する児童アンケートで肯定的評価を 90%以上にする。	②「いじめ」に関する児童アンケートの肯定的な評価を 100%にする。	①学校評価に伴う保護者アンケートで、全項目の「分からない」という回答を 20%以下にする。
②「ユニバーサルデザイン」に関する保護者アンケートで肯定的評価を 80%以上にする。	②「不登校」による欠席児童を 10 名以下にする。	②「地域」に関する保護者アンケートの肯定的評価を 80%以上にする。

人材育成・組織運営
<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進部を中心に主任教諭によるミニ研修を計画的に実施するとともに、若手教員自らが学びやすい環境を整える。</li> <li>○調小研や教育委員会主催の研修以外の研修会に一人1回以上参加する。</li> <li>○主幹教諭と管理職との打合せの機会を月1回以上設定し、各分掌における課題等を早期に解決するための体制をつくる。</li> </ul>